

子育て

孫育て

自分育ち



## 子どもとの距離

和田 重良

子どもの成長とともに（子供と親との距離）は段々と離れてくるのが当たり前なのですが、例えば一人っ子などでは、お母さんと子どもの立ち位置がどうしても「くつつきっぱなし」になってしまいます。

また、人より余分に心配性の親は、子供が何人いても心配で心配で、どの子との距離も保つ

ことができなくなっているのです。

三歳は三歳の自立というこ  
とがあり、五歳になってもヒザ  
に乗せてご飯を食べさせてあ  
げるといふのはどうなのでし  
ょう。自分でできることは自分  
でやれるというのでなければ  
ならないでしょう。

最近、目につくのが、中学・  
高校生になってもまだお母さ  
んといっしょに寝ている。中  
はお母さんといっしょに風呂  
に入っている男の子もいます。  
ビックリですが、距離が近すぎ  
やしませんか？

なんでもお母さんがいっし  
よじやなきやできない青年に

対し、お母さんの方もそうす  
ることがうれしいらしいので  
す。しかし、一生一人で生きら  
れないのでは困ります。何か困  
ったことが起こると「お母さん  
（お父さん）のせい」にしてい  
るし、反対にお母さんの方も気  
になって気になって子どもの  
人生を子どもにお任せするこ  
とができないのです。

どこかで手ばなさなければ  
ならないのですから、そのポイ  
ントとして、幼児期から思春期  
までの距離の取り方を提案し  
ているのです。『親と子の関わ  
り方提言』参照）

